

障害者の継続的な就労支援のための
情報移行の書式の検討
－ 「できますシート」におけるアイデアの量的増加および
質的向上に向けた介入の効果－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
立花 周太

この研究は、「できますシート」における「援助付きの行動」と関わるアイデアの数の増加と援助付きの行動に基づくアイデアの質的向上を目的とした介入を検討したものである。「できますシート」は、応用行動分析に基づいて障害がある個人の「援助付きの行動」、行動を喚起、維持する条件を伴った行動、を記述するものである。「できますシート」は個人の「援助付きの行動」の情報を関係者(例えば特別支援学校教員、ジョブコーチ、家族、企業の職員)間で移行することによって、その障害がある個人が正の強化を得る機会を増加させる。この研究には ABA デザインの実験が 2 つ含まれている。参加者は架空の個人の行動を元に、その人物が実現可能な行動のアイデアをシートに記述した。実験 1 では、介入期に「こんなことができる」項目において三項随伴性を模した図が使用された。加えて、三項随伴性に基づく行動の具体的な例示が実験 1 を通して使用された。「こんなことができる」は「できますシート」における個人の行動の機能を記述するための項目である。実験 2 では、例示は使用されず、介入期において実験 1 と同様の図が使用された。筆者は、援助付きの行動に関わるアイデアの数を数え、アイデアの質を「援助付きの行動」に基づいて分析した。実験の結果、三項随伴性を模した図は実験 1、2 を通してアイデアの数に影響を与えなかったことが示された、そして、実験 1 と実験 2 を比較して、実験 1 の記述の質が高いということが示された。実験の結果、援助付きの行動を適切に記述するにあたり、三項随伴性に基づく行動の具体的な例示が有効であることが示された。